

**■正誤問題** (過去に出題された選択肢) 30 問

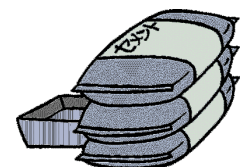
材料管理に関する記述です。○×で回答して下さい。

答えが×になった場合は、どこが間違っているのかも考えてみましょう。

1. アスファルトルーフィングは、屋内の乾燥した場所に立置きにして保管した。
2. ALC パネルは、屋内に台木を水平に置き、その上に平積みにして保管した。
3. シーリング材は、高温多湿や凍結温度以下とならない倉庫内に、密封して保管した。
4. 陶磁器質タイル型枠先付け工法に用いるタイルユニットは、直射日光や風雨による劣化などを防止するため、シート養生を行い保管した。
5. 板ガラスは、振動等による倒れを防止するため、屋内に平置きにして保管した。
6. アスファルトルーフィングは、屋内の乾燥した場所に横積みにして保管した。
7. 可燃性塗料は、周囲の建築物から 1.5m 離れた不燃材料で造った独立した平家建の倉庫に保管した。
8. 木材は、雨や直射日光を避け、土に接しないように、まくら木にのせ、通風を考慮して保管した。
9. 鉄筋は、泥土が付かないように、受材にのせて保管した。
10. 砂は、泥土等が混入しないように、周辺地盤より高いところに保管した。
11. 打放し仕上げに用いるコンクリート型枠用合板は、直射日光に当て、十分に乾燥させてから保管した。
12. 巻いた壁紙は、くせが付かないように立てて保管した。
13. セメントは、吸湿・風化を防止するために、出入口以外に開口部のない気密性の高い倉庫に保管した。
14. 鉄筋は、直接地面に接しないように角材の上に置き、シートで養生して保管した。
15. 高カボルトは、乾燥した場所に保管し、施工直前に包装を解いた。
16. アスファルトルーフィングは、吸湿や折損を考慮して、屋内の乾燥した場所に立てて保管した。
17. セメントは、窓などの開口部が複数ある風通しのよい倉庫に保管した。

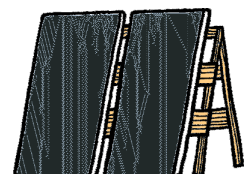
安全管理に関する記述です。○×で回答して下さい。

18. 建築足場の登りさん橋の高さが2.1mの場合、その勾配を35度とした。
19. 軒の高さが6.5mの木造建築物の構造部材の組立て作業については、作業主任者を選任しないで行った。
20. 高さが1.5mを超える箇所における作業については、安全に昇降するための設備を設けた。
21. 高さ2mの作業場所から不要な資材を投下する場合、資材が飛散するおそれがあったので、投下設備を設けずに行った。
22. 移動はしごは、幅30cmの丈夫な構造とし、すべり止め装置を取り付けた。
23. 型枠支保工において、組立図を作成して図面どおりに組み立てた。
24. 高さが2.5mの箇所で作業を行うので、足場を組み立て、作業床を設けた。
25. 墜落の危険のある箇所に、高さ95cmの手摺を設けたが、作業上やむを得なかったため、必要な部分に限って臨時にこれを取り外した。
26. 鉄骨造の建築物において、高さが5m以上の鉄骨の組立て作業には、作業主任者を選任した。
27. 架設通路の登り栈橋の高さが2.1mの場合、その勾配を30度とした。
28. 高さが3mの作業場所から不要となった資材を投下する場合、投下設備を設け、立入禁止区域を設定して監視人を配置した。
29. スレート葺の屋根の上で作業を行う場合、幅30cmの歩み板を設け、防網を張った。
30. 高さが2mの作業構台において、作業床の床材間のすき間を、5cmとした。



## ■正誤問題 解答編

1. アスファルトルーフィングは、屋内の乾燥した場所に立置きにして保管した。  
1. ○
2. ALC パネルは、屋内に台木を水平に置き、その上に平積みにして保管した。  
2. ○
3. シーリング材は、高温多湿や凍結温度以下とならない倉庫内に、密封して保管した。  
3. ○
4. 陶磁器質タイル型枠先付け工法に用いるタイルユニットは、直射日光や風雨による劣化などを防止するため、シート養生を行い保管した。  
4. ○
5. 板ガラスは、振動等による倒れを防止するため、屋内に平置きにして保管した。  
5. × ガラスの保管は、平置きではなく、立置きとします。
6. アスファルトルーフィングは、屋内の乾燥した場所に横積みにして保管した。  
6. × アスファルトルーフィングを保管する場合は、必ず縦に置きます。
7. 可燃性塗料は、周囲の建築物から 1.5m 離れた不燃材料で造った独立した平家建の倉庫に保管した。  
7. ○
8. 木材は、雨や直射日光を避け、土に接しないように、まくら木にのせ、通風を考慮して保管した。  
8. ○
9. 鉄筋は、泥土が付かないように、受材にのせて保管した。  
9. ○
10. 砂は、泥土等が混入しないように、周辺地盤より高いところに保管した。  
10. ○
11. 打放し仕上げに用いるコンクリート型枠用合板は、直射日光に当て、十分に乾燥させてから保管した。  
11. × コンクリート型枠用合板は、直射日光を避ける必要があります。
12. 巻いた壁紙は、くせが付かないように立てて保管した。  
12. ○



13. セメントは、吸湿・風化を防止するために、出入口以外に開口部のない気密性の高い倉庫に保管した。

13. ○

14. 鉄筋は、直接地面に接しないように角材の上に置き、シートで養生して保管した。

14. ○

15. 高力ボルトは、乾燥した場所に保管し、施工直前に包装を解いた。

15. ○

16. アスファルトルーフィングは、吸湿や折損を考慮して、屋内の乾燥した場所に立てて保管した。

16. ○

17. セメントは、窓などの開口部が複数ある風通しのよい倉庫に保管した。

17. × セメントは空気中の水分を吸収すると風化するので、空気の流通を防止する為に、出入口以外に開口部のない倉庫に保管する必要があります。

18. 建築足場の登りさん橋の高さが2.1mの場合、その勾配を35度とした。

18. × 高さが2m以上の登りさん橋(架設通路)の勾配は30度以下とするか、さん橋の代わりに階段を設ける。

19. 軒の高さが6.5mの木造建築物の構造部材の組立て作業については、作業主任者を選任しないで行った。

19. × 軒の高さが5m以上の木造建築物の構造部材の組立て又はこれに伴う屋根下地若しくは外壁下地の取り付けの作業は、作業主任者を選任して行う。

20. 高さが1.5mを超える箇所における作業については、安全に昇降するための設備を設けた。

20. ○

21. 高さ2mの作業場所から不要な資材を投下する場合、資材が飛散するおそれがあったので、投下設備を設けずに行った。

21. ○

22. 移動はしごは、幅30cmの丈夫な構造とし、すべり止め装置を取り付けた。

22. ○

23. 型枠支保工において、組立図を作成して図面どおりに組み立てた。

23. ○

24. 高さが2.5mの箇所で作業を行うので、足場を組み立て、作業床を設けた。

24. ○

25. 墜落の危険のある箇所に、高さ95cmの手摺を設けたが、作業上やむを得なかったので、必要な部分に限って臨時にこれを取り外した。

25. ○

26. 鉄骨造の建築物において、高さが5m以上の鉄骨の組立て作業には、作業主任者を選任した。

26. ○

27. 架設通路の登り栈橋の高さが2.1mの場合、その勾配を30度とした。

27. ○

28. 高さが3mの作業場所から不要となった資材を投下する場合、投下設備を設け、立入禁止区域を設定して監視人を配置した。

28. ○ **地盤面からの高さが3m以上の場所から不要資材を投下する場合は、ダストシュート等の投下設備が必要です。**

29. スレート葺の屋根の上で作業を行う場合、幅30cmの歩み板を設け、防網を張った。

29. ○

30. 高さが2mの作業構台において、作業床の床材間のすき間を、5cmとした。

30. × **作業床の幅は40cm以上とし、床材間のすき間は3cm以下です。**

